



BAIEIDO-TSUSHIN

# 梅栄堂通信

Vol.54

'10 春号



創業三百有余年

## 梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号  
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672  
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>

新しいパッケージで、今年もよろしくお願いたします。

ぜんこうひ

# 残香飛

煙ひかえめ

発売当初から、話題を呼び  
ご好評をいただいております《残香飛》。  
コーヒーには、疲労感を取り除き  
集中力を高める作用があるといわれています。  
《残香飛》は煙控えめ。  
ゆったりと流れる時間。  
アロマの香りをお楽しみください。

● 残香飛 標準小売価格 1,050円 (本体価格 1,000円)



## 四季彩々

### 高遠城址公園

コヒガンザクラ



#### 歴史に彩られた桜の名所

西の吉野、東の高遠と言われる高遠のコヒガンザクラは、桜の名所百選に選ばれ、また「タカトウコヒガンザクラ」として長野県の天然記念物にも指定されている桜の名木です。

高遠城は伊那谷の要所として、高遠氏、武田氏、織田氏と城主を変えた後、明治四年の廃藩置県で取り壊しとなりました。その後、荒れ果てた城址を憂いて、旧藩士達が、せめてもコヒガンザクラを植

え始め、百年以上たつた今では、高遠城跡公園として整備され、千五百本以上に及ぶ大木が城址を埋め尽くします。高遠のコヒガンザクラは、小ぶりやや赤みを帯びた可憐な花です。ここは武田信玄亡き後、織田軍に攻め込まれた盛信(信玄五男)以下三千人の将兵が「壮絶な討ち死に」をした地。このとき流した血が大地に浸み込み、ここに育つ桜はひとときわ紅い…と言いつづかれています。また、枝びつしりと咲くのが特徴で、花期は比較的短く、ぱつと咲いてぱつと散る深い桜だともいわれています。見頃は四月中旬。園内は、至る所で桜が楽しめますが、二の丸へと続く「桜雲橋」はまさに桜のトンネルで、



**見頃** 四月中旬  
**アクセス** JR飯田線伊那駅からJRバスで、高遠行き乗車二十五分。期間中、高遠バスターミナルから高遠城址公園まで循環バスあり。

**連絡先** 伊那市観光協会 高遠支部  
TEL 0265(94)2552

#### 近頃思うこと 梅栄堂社長 中田信浩

##### 線香業界の新たな進展に期待しております。

昨年の業界でいちばん大きな出来事といえば、「日本薫物線香工業会」が設立されたことでしょうか。

今までは、それぞれの地域ごとに個々には親交があったものの、全国的な組織はなかったのですが、今後は情報交換を初め、皆さんが協力して、線香業界のより以上の発展を目指していける場ができたことを、大変嬉しく、また心強く思っております。

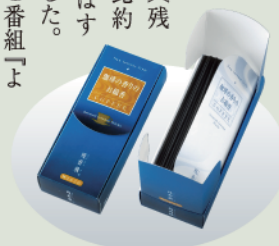
##### パッケージも新たに…

我が社といたしましては、昨年から新しいニーズに合ったパッケージデザ

インに変更してまいりましたが、徐々に売り上げにも反映してきておりまして、嬉しく思っております。

中でも、進物用の「沈香好文木」(五二五〇円税込)は変更後、急に引き合いが多くなりまして、時代に合ったパッケージデザインの大切さを実感しております。昨年は、香りを楽しむシリーズの「残香飛」等も、

「デザイン」の統一を図ってまいりましたが、おかげさまで「残香飛」は前年比約六%売上を伸ばすことが出来ました。先日は、テレビ番組「よ



いドン！」(関西テレビ)で「残香飛」の取材を受けました。放映直後から電話が鳴り続き、ご注文が相次ぎました。

「こんな線香初めて知った」「ぜひ試してみたい」という声が大変多いのに驚き、マスコミの力の大きさを感じるとともに、今後、もっと多くの方々に知っていただくことにより、まだまだ開拓の余地があることも、実感いたしました。ここ数年、どちらの業界もなかなか大変でございますが、忍耐と前向きな気持ちで、新しい商品作りに取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





# 香の話 古典を読む

米田 諒典 (大阪大学大学院医学系研究科)

掘り出した沈香 ▶



かかない、とは云っている。私の乏しい調査経験でも、自然結香していた木は少なく、もう少しは多かったが、それでも十本に一本を超えることはない。そんな確率の悪い事では需要に追いつかない。そして効率を上げるためにたどり着いたのが孔あけだったのだろう。そんなことを、蘭山はこともなげに書き残している。江戸時代にすでに沈香の産地に入って調査をしていたのだろうか。それとも、いったいどこからこの知識を得たのだろうか。中国の本草書にはそんな情報はない。また、沈香を土中から探し出して採ることに触れている。沈香を土中から探し出して採っているのは事実である。しかし、もう採り尽くして今更：と思ったときもあった。

## すばらしい正倉院宝物 「沈香木書箱」

今この原稿を書いているのは十月である。この時期には奈良の国立博物館では恒例の正倉院展が開かれている。今年は今上天皇御即位二十周年記念とのことで、奈良の後、東京へ会場を移して、展覧会が行われるとのことである。その展覧会に香の関係者にとって少なからず関心がある品が展示されている。「沈香木書箱」と題箋された宝物である。正倉院宝物を代表する一つであろう。そんなに大きな物ではない。下手な説明では品を落とすことになるので遠慮するが、箱の各所に施された沈香や白檀を始めとする香材をふんだんに使いつつ、各所の施された材料の豊かさや技術の素晴らしさに驚かされる。

## 小野蘭山が著した 「本草綱目啓蒙」にみる 知識の深さ

そんな折りに、過去において先輩諸氏は香材をどのように眺めていたのだろうか、との思いから、久方ぶりに本草書を繙いている。本草（ほんぞう）とは、伝統薬物学ともいうことになるのだろうか。でも、香木や香料に関しては参考になることは多くない、と信じていた部分がないことはない。ところが、江戸時代中期に著された『本草綱目啓蒙』という書籍を見ていて、再発見をした。というのは沈香の記事であった。そこには、沈香の成因について蟻の食害によって結香することが書かれていて、木の自らの要因で結香することと、蟻などの外部から

山地に行けば土中から得た沈香に出会う。土中から得られる沈香には二様がある。一つは多くの沈香と変わらないもの。もう一つはやや色が薄く、香りが強い物である。後者の生成過程の調査を行ってはいませんが、どうも結香へのきっかけを与えてからでも採取できるまでに四、五年はかかるようだ。そろそろ自信がなくなってきた昨今でもある。

## 先人たちの賢察に 感謝の日々

来年は著者の小野蘭山の没後二百年にあたる。二百年以上も前に既にこ



沈香樹に群がる蟻の巣 ▲

の傷で成因となることを区別して書き留めている。私も沈香の研究過程では、幾度も読み通した文意であったはずだが、今新たな気持ちで読み直している。

昨今、沈香の人工生産の事が話題になることが多い。そこに採用されている技術のメインは、ドリルなどで生木に傷を与えて、傷口の周辺に結香をさせようという技法である。原産地の中国南部やベトナムなどでは早くから普通に行われてきた方法である。何故そのような技法が行われるかと云えば、本草綱目啓蒙の中でも、結香した木は百に一、二し



土中から沈香を掘り出す ▶



### プロフィール

米田 諒典  
(よねだ かいすけ)

所属 大阪大学大学院医学系研究科医学史料室  
薬学博士 神戸市生  
専攻 文化財の材質調査と保存の科学  
薬用資源学 薬史学  
薬学時代には正倉院薬物を調査し、博物館へ移籍後は文化財全般に枠を広げ、いつの間にか海外の文化財にまで手を広げつつある。

## グレープフルーツ

■爽やかな香りとお感

精油にある、いろいろな効用に  
注目が集まっています。

今ではバナナに次いで二番目の輸入量を誇るグレープフルーツですが、わが国で日常的に見かけるようになったのは、一九七一年に輸入の自由化が実施されるようになってからのことです。



爽やかな食感が日本人の口に合ったのか、以来急速に輸入量が増え、人気の果物となりました。グレープフルーツはブタントンとスイートオレンジの自然雑種と考えられています。十八世紀に西インド諸島のバルバドス島で発見され、その後アメリカのフロリダに伝わり、大々的な栽培が行われるようになりました。

成木は七十メートルの高さになる大型常緑樹で、四、五センチの大きめの白い花が咲きます。

一本の枝にちょうどブドウの房のようにたくさんのお実を付けることから、柑橘系の果物であるにもかかわらず、「グレープフルーツ」の名前が付けられたと言われています。

現在ではアメリカを始め、メキシコ、南アフリカなどを中心として世界各地で生産されています。中でも、アメリカで生産されるグレープフルーツの約半分は搾汁され、ジュースへと加工されます。そして、その過程の中で、外果皮から精油が抽出され、香料の原料となります。

グレープフルーツの精油は爽やかな酸味を感じ、その清涼感から、男性用のオーデコロンなどにも幅広く利用されています。また、最近ではグレープフルーツの香りの成分の中に、脂肪の燃焼を促進する成分が含まれているという研究報告がなされ、瘦身用のアロマオイルとしての人気も高くなっています。



◀ブドウの房のように実を付けるグレープフルーツ

### ●商品紹介

## 二つのミントが溶け合う香り ダブルミント香こごめ

煙ひかえめ

ペパーミントは、クリアで清涼感あふれる香り。脳を刺激して、気分をすっきりする働きがあります。一方スベアミントはマイルドで優しい香り。ストレスを和らげ、癒してくれる成分が含まれています。梅栄堂のお線香ダブルミントは、二つの香りを絶妙にブレンド。

優しく、爽やかな香りをお楽しみいただけます。



●標準小売価格  
1,050円  
(本体価格 1,000円)

### ●話題

#### テレビ、ラジオで人気!

関西テレビの朝の番組「よいドン!」では、円広志が街に出かけて个性的で興味深い人物を見つけ出し、「となりの人間国宝」に認定するというユ

ニークな番組。今回は堺の街に繰り出し、伝統的な線香はもちろん、コーヒーなど新しいお線香を開発し続ける梅栄堂の中田社長に会い、さっそく認定!いつもながら楽しいレポートを繰り上げました。

NHKテレビ「ぐるっと関西おひるまえ」では、「匠のコーナー」で原料にこだわった線香作りというところで梅栄堂を取材。原料の香木の話や製造過程、匠の技の紹介。また香道についても紹介されました。

あるパッケージへとリニューアルいたしました。今後とも、ご愛用いただきますよう、お願いいたします。

#### NY国際ギフトフェア

二〇〇八年に第一回目の出展をはじめ、昨年の八月で四回目の出展になりました。回を重ねるごとに、梅栄堂のブースへも多くのバイヤーが訪れ、活発な商談が行われました。今回は海外向けブランドの「IMAGINE」だけでなく、「伽羅古香」などの高級線香にも注目が集まりました。

#### パッケージをリニューアル

ご好評をいただいている「残香飛」(二期香)「文々香」(煎香茶)「残香飛ブラック」ですが、「新しい香りを楽しむ」シリーズとして、より統一性の

(今号の表紙/クロッカス)

